
山梨大学教育学部附属教育実践総合センター センターだより第215号(通巻第282号)

2025年1月30日 発行
山梨大学教育学部
附属教育実践総合センター
TEL 055-220-8325、FAX 055-220-8790
E-mail: edjissen-as@yamanashi.ac.jp
URL: <https://www.edu.yamanashi.ac.jp/aepc/>

※このセンターだよりで紹介した研究会、研修、教育フォーラムに関するお知らせは、改変しない限り、自由に複写、配布していただいて結構です。

*****コンテンツ一覧*****

■令和5年度教育学部卒業生 教員就職率の報告

■山梨大学免許法認定講習（情報）の初年度が終了しました

■山梨県総合教育センターとの第3回連携・教育研究会の報告

■第44回 教育フォーラム

「算数・数学科における主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

ー全国学力・学習状況調査の結果や、模擬授業を通して考えるー」の報告

■令和6年度山梨大学教師塾プログラム「教員就職直前講座」のご案内

■第2回やまなし情報教育推進室フォーラム

「教育の情報化の現在とこれから」のご案内

■教育ボランティアニュース No.1～No.5

■2・3月の主な行事予定

これまでのセンターだよりの一部は、<https://www.edu.yamanashi.ac.jp/aepc/2306/> で見ることができます。

■令和 5 年度教育学部卒業生 教員就職率の報告

卒業生の教員就職率②69.0%、全国 19 位

令和 6 年 3 月に山梨大学教育学部を卒業した学生の教員就職率②（卒業者数から大学院進学者と保育士への就職者数を引いた数を分母とし、教員への就職者数を分子として表した割合）は 69.0% となり、全国の国立教員養成大学・学部の平均と並び、全国ランキングでは 19 位という好成績となりました。この結果は第 4 期中期目標中期計画の「教員就職率②を全国平均以上」という目標を達成したことになります。なお、近隣の教員養成大学・学部は、信州大学 66.3%、静岡大学 62.5%、東京学芸大学 65.9%、横浜国立大学 48.6%という結果でした。

平成 29 年より、山梨大学教育学部では、「教員就職はゴールではない」が、地域のニーズに応え教員養成学部としての役割を果たしていくため、教員就職率の向上を目標に掲げてきました。以来、附属教育実践総合センター教職支援部門・教職支援室をはじめ、学部の関係委員会・関係 WG・学部長補佐会、教育学部教職員、同窓会組織「徽典会」等が互いに連携しあい、様々な教員採用試験対策講座や、学生の個別指導、進路支援ガイダンス等を企画・実施し、教員をめざす学生を応援してきました。今後も、仲間とともに自ら学び続ける素敵な先生を育てていけるよう、学生ひとりひとりに寄り添い、手厚い教職支援を行っていきます。



山梨大学免許法認定講習（情報）の初年度が終了しました

やまなし情報教育推進室

山梨大学教育学部では高等学校での情報Ⅰの必修修化、大学入学共通テストにおける「情報」の導入を受け、教員としての資質向上と情報免許の取得教員を増やすことを目的に、高等学校教諭免許状を持つ現職教員等が高等学校一種免許状（情報）を取得する機会として、山梨県教育委員会との共催により情報の免許法認定講習を今年度より開講しました。

認定講習では、免許取得に必要な12科目を1年あたり4科目ずつ計3年間をかけて開講していき、必要な単位を取得すれば高等学校一種免許状（情報）が取得できます。本講習は、専門性のある本学教員が講師を務め、現職教員の勤務に配慮するために夏休み期間および土・日に開講しています。そして本学が受講料・教材費を全額補助するなど全国的にも珍しい形で講習を開講しています。8月には「プログラミング基礎と演習Ⅰ」及び「情報システム」、11月には「情報社会（職業に関する内容を含む）」、12月には「プログラミング基礎と演習Ⅱ」が開講されました。



▲「情報社会（職業に関する内容を含む）」の様子



▲「プログラミング基礎と演習Ⅱ」の様子

他教科の高等学校の免許状を有する本学大学院生、教員就職を目指すパーパーティーチャーなど幅広い方に受講いただき、高等学校一種免許状（情報）のニーズの高さがうかがい知れました。

令和7年度は、「情報倫理」「情報システム演習」「マルチメディア表現と技術」「情報科教育法Ⅰ」の開講を予定※しています。来年度以降、やまなし情報教育推進室 Web ページに「令和7年度免許法認定講習募集要項」を掲載しますので、ご興味のある方にご案内いただくとともに、受講を希望される方は申込みをお願いいたします。

（※ 開講科目は文部科学省に申請前のため変更になる可能性があります）

■山梨大学教育学部附属教育実践総合センター やまなし情報教育推進室 Web ページ

<https://www.yamanashi.info/>



■ 山梨県総合教育センターとの第3回連携・教育研究会のご報告 (11 / 19)

山梨大学教育実践総合センターと山梨県総合教育センターによる連携・教育研究会は、山梨県教育委員会と山梨大学の教員養成及び教員研修に関わる連携の一部です。年間5回の研究会をとおして情報を交換し合っています。例年、第3回は大学教員が講演を行っています。本年度は、杉山雅俊准教授による「PBLを実践するために見極めるべきこと」と題した講演が開かれました。

冒頭に「第4期教育振興基本計画」において「探究」「課題解決」が一層重視されたことを背景に、PBLを実践する必要があるとのお話がありました。

PBLについて、溝上(2016)の定義を引用し、Problem-based learning (PbBL) と Project-based learning (PjBL) の2つに大別されるが、両者のよさ「学習者は積極的な問題解決者であり学習の主体者である」「成果物を公にする」を統合して実践するとよい、と話されました。



PBL の概念を学んだ後、演習『『淀ちゃん』を沈めたことに賛成？反対？』をとおして PBL の理解を深めていきました。受講者からは「淀ちゃんは、放っておくと爆発するらしいよ」「淀ちゃんを沈めるには、または解剖調査するには、いくらかかるのだろう」などの意見が出されてい



ました。伝統的な学習では知識を学んだ後に演習テーマが出されてきたのに対し、PBLは演習テーマから出た問いをもとに知識を学んでいく手法であることを肌で感じる事ができました。

最後に、前述の定義に「問題解決に関する『知識』を身に付ける」を加えることによって現代版日本型の PBL が構築されるのではないかとということと、安易に PBL を導入するのではなく、教師の教育観を問い直しながら適切な教育を行っていくのがよい、とのお話をいただき、講演会は幕を閉じました。

全体会の後は、7つの分科会（小学校・中学校・高等学校・情報教育・教育相談・特別支援・教育支援）に分かれ、今後の主事研究や研究協力校との実践研究に関する研究協議が行われました。

－ これまでの連携・教育研究会で開催された大学教員による講演 －

- R5.11…長谷川千秋教授「教員就職率向上の取組ーともに教員を育てるためにー」
- R4.11…小野田亮介准教授「『生き抜く力』を自己効力感から考える」
- R3.11…長谷川千秋教授「昔のことばと今のことばーことばから文化を促える」
- R2.11…川本静香准教授「コロナ禍における自殺予防」
- R1.11…森元拓准教授「学校生活における法的責任の理論と判例」
- H30.11…田中勝教授「子どもが主役 町並み保存～歴史的集落・町並みにおける地域協働の
ふるさと学習と担い手育成～」
- H29.11…宮澤正明教授「文字文化の継承・発展に寄与する教師の役割とは何か～新学習指
導要領の趣旨を踏まえた文字・書写指導の意義と目的から～」
- H28.11…松森靖夫教授「子どもの“なぜ”から始める理科授業づくり～理科好きな子どもを
はぐくむために～」
- H27.11…服部一秀教授「社会科教育をめぐる諸問題」
- H26.12…鳥海順子教授「特別支援教育の展望」
- H25.11…時友裕紀子教授「食物アレルギーの基礎知識」
- H24.11…谷口明子教授「校内研究に活かす質的研究法～よりよい授業実践のために～」
- H23.12…加藤繁美教授「子どもの自分づくりと保育・教育の課題～課題としての幼小接続
問題～」
- H22.12…成田雅博准教授「テキストマイニングの教育実践研究への活用」
- H21.12…石川啓二教授「近隣諸国との競争にさらされる日本の若者ー比較教育的視点から
見た今次学習指導要領の背景ー」
- H20.12…谷口明子教授「教育研究における質的研究法の可能性～実践現場からのボトムア
ップ式理論構築のために～」
- H20.01…中村享史教授「新学習指導要領の方向性」～P I S A型「数学応用力」の調査結果
と関連させて～
- H19.09…岩永正史教授「P I S A型読解力を育てるために」
- H19.01…中村享史教授「算数・数学科における思考力・表現力～大規模調査の問題から～」
- H18.09…岩永正史教授「説明的表現力を高める～私たちがもっている（知識=schema）に
着目して～」
- H18.02…永井達彦客員教授「小・中学生と向き合う教師と学校」
- H18.01…高橋英児助教授「国際学力調査から見える授業づくりの課題」
- H17.09…榊原禎宏助教授「教職員の職能開発と『楽しい』研修」
- H17.09…中村享史教授「米国の算数授業研究の現状」

（山梨大学 教育学部 附属教育実践総合センター - プロジェクト・研修・講座等

<https://www.edu.yamanashi.ac.jp/aepc/2301/> より）

第44回 教育フォーラム

算数・数学科における主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善 ー全国学力・学習状況調査の結果や、模擬授業を通して考えるー

令和6年11月26日午後6時から、教育学部A会議室に於いて、第44回教育フォーラムを対面とZOOMによるオンラインのハイブリッドで開催しました。

例年、山梨県総合教育センターが県内各校の研究主題の調査を行っていますが、ここ5年間で「主体的・対話的で深い学び」が不動のキーワードとなっています。それは、先生方が「学習者主体の学びを提供したい」という、教育者としての強い意志の表れではないでしょうか。

今回は、国立教育政策研究所から笠井健一先生をお迎えし、「算数・数学科における主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」について考えるフォーラムとしました。まず、「全国学力・学習状況調査の問題の出題意図」「山梨県における課題」を共有し「主体的・対話的で深い学び」との関連性を明らかにしていきました。そして、なんと！笠井先生に参観者を対象にした模擬授業的な講義を行っていただき、その中で「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善の方策についてご示唆を与えてくださいました。

当日は、小学校33名、中学校19名、高等学校6名、大学・教職大学院教員等10名、教育行政4名、一般8名の計80名の参加があり、内52名は対面での参加でした。

<パネラーからの提案>

はじめに**山梨大学教育実践創成講座 教授 早川先生**から、全国的な全国学力学習状況調査は、児童生徒の学力や学習の状況、課題を把握し、それらを授業改善に生かしていくことが目的であり、誤答した場合の考えが分かるつまりき類型が示されていることなどの特徴を示していただきました。



全国の小学校算数の状況と課題については、国立教育政策研究所の解説をご覧ください。今回は山梨県の傾向と課題とそれらへの対策について、お示ししたい。山梨県の状況は正答率、中央値等を見るとほぼ全国平均であり、その結果に一喜一憂せず以下に示す3つの課題を授業改善に生かしてほしい。

1. 図と式を関連させる

2年生の求差や逆思考の問題を例にとると、テープ図に表し数量関係を明確に表せるかが問題であり、問題文→テープ図→式という流れをしっかりと把握させたい。除法の除数と商の大きさの関係について考察する場面でも、式から数直線に表すことができることが大切である。

2. 必要な情報をとらえる

球の形をしたボールがぴったり入る立方体の形をした箱の体積を求める問題では、球の直径の長さと立方体の一辺の長さが同じだという関係をとらえることが大切。これが「算数の目」で見るということである。全国の結果も思わしくないが、山梨の結果は更に良くない。正答数別類型割合グラフを見てみると、正答数が3、4の算数が得意でない児童は 22×6 のように回答しており、比較的でき

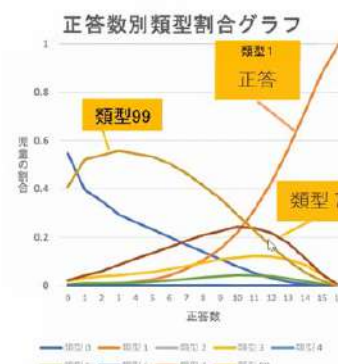
R6 3(3) 図形を構成する要素やそれらの位置関係に着目し立体図形について考察すること(見取図・展開図)

この立方体の形をした箱の体積が何 cm^3 かを求める式を書きましょう。



解答類型	反応率	山梨	
1 $22 \times 22 \times 22$	36.5	32.1	◎
3 22×22	8.5	8.2	
5 22×3	2.6	3.7	
7 22×3.14	16.0	18.8	
99 22×6 など	26.4	29.3	

思い込み短絡的に解いている



ている児童が 22×3.14 と答えていることが特徴である。また、高さが表されていない三角形の面積を比較する問題でも、必要な情報を選び出す「算数の目」で問題をみて、自ら選び出すことが大切である。

3. 速さ（2量の割合）の意味

今年の問題は速さの公式を使わないで解く問題が出題されている。量というところある単位のいくつ

3. 速さ(二量の割合)の意味

速さの意味が理解できるか R6 4(1)(2)(3)

▲公式「速さ＝道のり÷時間」だけではない

- ・「道のりが同じとき、時間が短い方が速い」
「時間が同じとき、道のりが長い方が速い」
(既有) …プロローグ

(参照)教科書5下p.32 <https://sw31.tsho.jp/06pk/m/5b/039/>

- ・どちらが速いか(本文)
「1秒間あたりの道のりが長い方が速い」…定義
「1mあたりの時間が短い方が速い」

分で数に表すことができる加法性があるが、速さ（単位量当たりの大きさ）は2量の割合で考え加法ができない。

公式が分かっているだけで速さが理解できるわけではない。速さが一定のとき道のりが長い方が速い、道のりが一定のとき時間が短い方が速いということを場面に応じ、道のりと時間から速さの比べ方を考察できる力を普段の授業の中で身につけさせてほしい。

山梨県総合教育センター 副主幹・指導主事の天野先生からは、全国学力学習状況調査の中学校・数学の結果分析とその対応についてお話いただきました。

総合教育センターでは複数校の採点を独自に行い、その結果に基づき授業改善に向けての説明会やリーフレットを作成し、授業改善の取り組みを進めている。

全国の結果と比較すると、16問中6問正答している生徒が多く、13～16問正答している上位層の割合が少ないものの正答率は全国と概ね同等といえる。4領域から1つずつ事例を



用いて、授業改善のポイントを示したい。

【数と式】

「 n を整数とすると、連続する2つの偶数を、それぞれ n を用いた式で表す」設問に対する改善のポイントとしては、「 n 、 $n+2$ 」とした場合の n に具体的な整数を代入したときに連続した偶数を表さない場合があることなど、誤答を生かした指導をすることが考えられる。

【図形】

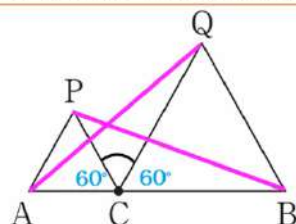
右図のような図形の証明問題は教科書では多く示されてはいないが、「 $A=B$ 、 $B=C$ より $A=C$ といった推移律を用いた相当関係を示す場面を設定することが改善のポイントである。

【データの活用】

「車型ロボットについて、障害物からの距離の設定を変えて調べたデータの分布から、四分位範囲について読み取る」問題では、四分位範囲と範囲について確認するとともに、四分位範囲の必要性和意味の理解を確実にすることがこの領域の改善につながる。

【図形】大問9(1) 第2学年

【設問】
線分AB上に点Cをとり、AC、CBをそれぞれ1辺とする正三角形PAC、QCBを、線分ABについて同じ側につくります。そして、点Aと点Q、点Bと点Pを結びます。ただし、点Cは点A、Bと重ならないものとします。
AQ=PBになることの証明を完成しなさい。



県 25.0% 全国 25.8%

△QACと△BPCにおいて 正答例

正三角形の辺はすべて等しいから
AC=PC …①
CQ=CB …②
正三角形の1つの内角は60°より
∠ACQ=60°+∠PCQ
∠PCB=60°+∠PCQ
よって、∠ACQ=∠PCB …③
①、②、③より、
2組の辺とその間の角がそれぞれ等しいから、
△QAC≡△BPC

合同な図形の対応する辺は等しいから、AQ=PB

問題解決の方法を議論する場面の設定

問題解決の方法を議論する場面の設定

yに0を代入する。

何がたりなかったのかな？

どの式に代入しているかわからない。

xの値を求めるだけだと、 $7.2-4.5=2.7$ を計算した部分の説明がされていないよ。

xの値を求めることを付け加えた方がいいよ。

※見いだした事柄や事実を説明する問題
『(前提)○○は、(結論)△△になる』のような形

※事柄を調べる方法や手順を説明する問題
※「用いるもの」とその「用い方」を記述

※理由の説明
※事柄が成り立つ理由を説明する問題
※『(根拠)○○であるから、(成り立つ事柄)△△である』のような形

【関数】

問題設定において、既に式とグラフが提示されている場合に解答を求める方法を的確に説明するという問題には、表現が不十分な説明を取り上げ問題解決の方法を議論する場面を設定するなどの取り組みをしてほしい。

最後に「数学の勉強が好き」と解答している生徒の方が、数学の平均正答率が高い傾向がある。数学の勉強は大切と答えている生徒が80%いることなどを考慮して、数学の勉強は好きといえる授業を進めて行ってほしい。

文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程調査官 笠井 健一先生

山梨県の小学校の状況として正答率の低い問題ができていない傾向がある。基礎基本、誰もができるようにしてほしい問題は全国以上にしっかりできている。中学校は正答率が高い問題でもできない問題があったり、低い問題ができていたりする。正答率の高い東京は塾に行っている子が多く、石川・福井・秋田などトップ層はそれほど多くないが、下位層を引き上げている。

山梨も下位層の子どもたちを真ん中まで引き上げる分かる授業をすることでトップになれる可能性があるのではないかと。また、北海道の状況を見ると地域によって違いが見られる。山梨県も県内地域によってどのような状況なのかをみて、対応していくことが求められる。

全国の状況を見ると、右上がりだった分布が高原型になってきている。これは分からない子どもが増えてきている。算数・数学は積み上げの教科だから、毎時間分からないことを分かるようにすること、分からない子をつくらないことが大切である。

一番のポイントは、先生方が手をあげている子どもだけを相手に授業していないか、手をあげていない子が手をあげるようになることが大事である。苦手な子、分からない子が中心となる授業をすすめてほしい。誤答の子、つまりいた子の考えをみんなで同じように考えた人はいたかなというように、誤答の子、つまりいた子が中心となって活躍できる授業をすることで、中学校で高原型（同じような区分の度数が複数存在し、中心付近の頂点のラインがほぼ平らになるグラフ）になることを止められるのではないかな。

＜意見交換＞

角田（司会）

笠井先生が誤答を生かした授業を進めると良いということに関連して、お話があれば、お願いしたい。



コーディネーター
角田 大輔 准教授
(教育実践創成講座)

笠井先生

先程の中学校の連続する2つの偶数を表す場合で「 n 、 $n+2$ 」としたら間違いだよと簡単に対応するのではなく、「 $2n$ 、 $2n+2$ 」と比べると惜しい。「 $2n$ 、 $4n$ 」も考えとして間違っていない部分を認めてあげることができる。

天野先生

昨年の自然数に0がはいらない問題でも正答数が低かったが、同様に $2n \cdot 2n+2$ のように知識理解と言えるようなことが定着していない、生きて働く力になっていないと感じる。既習事項と今学んでいることがつながっていない。小学校で学習したことを繰り返し学習して活用できるようにすることが大事だと思う。

早川先生

C1もC2も数をそろえようとしている、C3も公倍数を使って数をそろえようとしていることを認めてあげて授業を進める。C4の子が全員だと思い授業するが、実は比例がわかっていないということが多い。間違いだからだめだよということではなく、考えた子どもの話をよく聞いて、授業を進めていきたい。声の大きい子中心に進めるのではなく、考えの続きを言ってごらんと話したり、この考えについてどう思うなどと聞いたりして受け止めることが大事だと思う。

(提案)「同じ混み具合」に焦点を当てた
単位量あたりの大きさの指導の導入

②「5年 単位量あたりの大きさ」混み具合 (予想される反応)

	数(区)	面積(m ²)
A	5	8
C	6	9

C1	数(区)	面積(m ²)
A	$5+1$	$8+1$
C	6	9

C2	数(区)	面積(m ²)
A	5	8
C	$6-1$	$9-1$

C3	数(区)	面積(m ²)
A	5×6	8
C	6×5	9

C4	数(区)	面積(m ²)
A	5×6	8×6
C	6×5	9×5

角田先生（司会）

簡単にまとめると、①山梨県の小学校は深い理解に時間がかかる。深い理解を促すように進めることが求められる。②下位層の子どもを支えるようにしたい。そのためには、誤答の子どもの考え

を丁寧に聞くことが必要。③教科書の数値設定についても、間違いやすい数値設定がされている。教員がその点を把握した上で授業するようにしたい。今後の取り組みとして、一人でもつまずいている子がいたら、そこを見逃さず考えを深めていくように心がけていきたい。

<講演>

文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程調査官 笠井 健一先生

後半は笠井先生から「算数・数学科における主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善－全国学力・学習状況調査の結果や、模擬授業を通して考える－」と題し講演をしていただいた。



講演の冒頭、「Padlet」というアプリを使い、授業で困ったときに聞くことのできる人が周りにいますか、初等教育資料を読んだことがありますかなど、参加者の算数・数学授業等に関する考えや取り組み状況を把握しながら一つ一つにコメントをされた。本日はアンケートだが、授業で「Padlet」を使えば、その場で子どもたちの考えを集めて比較することができる。今日のようにアプリが事前に入っていなくても考えを共有することができる。教育の3大アプリは、「Padlet」「Canva」「Kahoot!」だといわれている。是非効果的に活用してほしい。また、初等教育資料に思考力・判断力・表現力、学びに向かう力などの特集が組まれていますので、機会があればお読みいただきたい。

都道府県別の教員の年齢構成を見ると、年々20代、30代が増えてきている。私が教員になった頃には今より若い教員が多かった。今後更に若い教員が増えていくだろうから、若い人が今後更に活躍して欲しい。もう一つ、県ごとに違うのは学校規模。山梨県は半分以上の学校が二学級以下なので、先輩がいないという状況になってきている。違いに応じてやっていくことが必要になっている。

今までは知識・技能だったのが情報化やグローバル化が進んでいる中でも子どもたちが大人になっても困らないように指導をしている。ルーティン化した仕事がどんどんなくなってきている中で、人間ならではの強みを生かす仕事が残っていくのではないかな。場面の状況に応じて対応できるような子どもになってほしい、何か問題があったときに自分で考え、みんなでも考え、話し合っていけるような人になってほしい。そのために、昔ながらの知識・技能だけでなく思考力判断力表現力、更に学びに向かう力・人間性をトータルに進めていくために、学習指導要領が改訂されてきている。

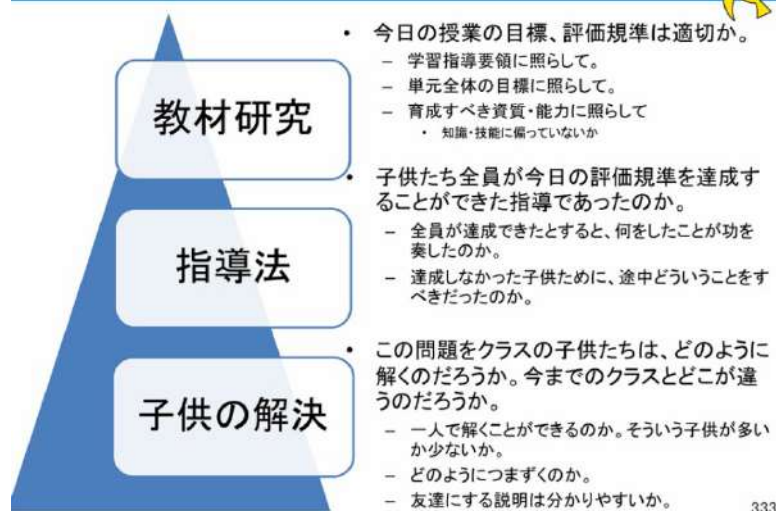
一方で知識・技能といっても浅い知識・技能ではだめだということ。平行四辺形の面積も公式を当てはめることはできても長さが示されてなかったり、自分で読み取ることができなかったりして正答率が下がっている。普段行うテストでも簡単に当てはめるだけではない問題ができるようにしなければ育っていかない。指導もするけれども、評価テストもこういった問題を入れていく必要がある。深い理解を問う問題を入れると共に、その問題が解けるように指導も行っていくほしい。

そう考えると、普段の授業を変えるのは、教材研究プラス研究授業。学校内で研究授業を繰り返す、他の人の授業を見ることで、授業を変えていくことが大事だと思う。

自分がどんな授業をやってきたかをふり返ってみると、学生の頃は子どもたちに知識技能を伝えることができた喜んでた。教員になったら、知識・技能じゃだめだ、思考力判断力表現

力を育成するような授業ができなさいいけないと先輩に言われ、がんばって変えて問題解決型の授業ができるようになってきたが、それはできる子どもだけを相手に進めてきたからできたつもりになっていたが、実は分かっていない子が何人もいることに気づいた。調査官になってから全国の学校を見させてもらうようになってから、普通に問題解決型の授業をやりながらすべての子どもを救うことができる授業をしている先生がいる。その先生に担任してもらおうとクラスがしっとりとしてきて、苦手な子どもが活躍する場面を作っていて、できる子どもだけで授業を進めていない。そういう授業を見せていただき自分も良い授業をつくれるようにがんばっていきたいと考えていた。模擬授業より、良い授業はどのような授業なのか、素晴らしい授業をするにはどのようにすれば良いかを紹介した方が良くと考え、本日進めようと思う。

授業を見せて頂くときの視点



333

まず、何を教えれば良いかを教員が理解する、思考力とは子どもがどのようなことができるようになることなのか、そのことが分かっていないとうまくいかない。記述式も説明の記述と理由の記述と事実の記述がある。思考をといてもいろいろな思考の仕方がある。授業で子どもたちに書いてほしいことは何なのかを見つけていくのが教材研究。子どもたちに実際に問題を解決してもらった后可以できる子どもいたけどできない子どもいたな、そこでできなかった子にどんな指導をしていったら良いか、指導法を工夫することが大事だと思う。一年間同じ指導をすればいいのではなくて、子どもたちの実態に応じて指導法を変えられる先生になってほしい。

思考力を育成するならば、先生自身が筋道を立てて説明できることが大事。数直線を使って解く問題なら、先生が数直線を書く過程を筋道立てて説明できる必要がある。それができなかったら、子どもが数直線を書けるようにはならない。分数のわり算だったらわる数の逆数をかけるといことは知識として知っていてもなぜそうすれば良いのかを説明できなくてははいけない。中学校だったらマイナス×マイナスはプラスになることを先生自身が筋道立てて説明できることが必要。そうしないと子どもたちが説明できるようにはならない。そのために、初任の方はいろいろなことに筋道を立てて説明できるよう、先生自身が周りの先生に教わってできるようになることがまず大事。これが1つ目である。

次は授業しているときに、できる子だけ相手にしたら授業は進み終えることはできる。けれどその中につまずいている子、手が挙がってない子、困っている子を見つけて、どういう説明をしたら、具体物を使ったら、物を見せたら、分かってくれるだろうか、つまずいている子どもにも分かるような説明とはどういう説明かを先生自身が分かって丁寧な説明ができるようになってほしい。

aの段階の説明であればクラスの半分から上の子しか分からない。分からない子にも分かる説明を

してみんなが分かるようになることが次の段階bである。初任者の方は1時間の授業を終えるのに精一杯で難しいと思う。しかし、何年も経っていくうちにつまずいていることが増えてくるはず、その時にその子に合わせた詳しい説明をしていく場面を授業の中で作っていくことが大事だと思う。

その次の段階cでは、つまずいている子に分かる説明を算数が得意な子ができるように

なしてほしい。今、協働的な学びということで話し合っ、子ども同士で教え合っとかやっているが、本当に分からない子が分かるようになってきているかといえば、全然分かるようにはなっていない。算数が得意な子が説明すると得意な子が分かっている抽象的な説明をして終わるから、分からない子はそうだね、で終わってしまう。算数が得意な子につまずいている子が分かる説明-絵を描くんだよ、具体的な物を使うんだよ-をわかってもらって、算数が得意な子がそういったことを使いながら説明することができるような環境を作っていけない限りは、グループで教え合ったり立ち歩いたりする時間をとっても無駄。

そのためには、先生がつまずいている子がどんなことが分からないのかつき合っ、分からないことを分かってもらっ説明ができるようになることが必要である。分からない子にどんな説明をしたら分かっくれるんだろうと日々頭を悩ませ、それならこんなことをしてみようかな、クイズ形式でやるとおもしろいかなといろんなことをやっっていくことが楽しい。説明して分かっくれたうれしさを先生が体験した後に、そのノウハウを算数が得意な子に伝えるようになると、学級全体の学びが本当の学び合いになり、苦手な子が分かっっていく学び合いになると思っている。経験年数が上がっっていくに従い、毎日の授業で先生方がすべき a b c の段階を徐々にできるようになることが求められている。

2 「毎日の授業で先生方が」どうすべきか



a まず先生が、分かりやすく説明できること。

b1 つまずいている子供、困っている子供を見つけること。

b2 困ってる子供が何に困っているのか、教材研究に基づいて理解できること。

b3 そのことに基づき、何をしたら子供はできるようになるのかを知っていて、実践できること。

c1 子供の不十分な説明に対して、困っている子供なら分からないであろうことが分かっ質問すること。

c2 そのことを通して、分かりやすい説明とは、どういう説明なのか、クラス全員が分かること。

これからの算数の授業はハイブリットで。



• 分かりやすく教えて練習させる授業

- 普通の教師は分かりやすく教える。
- いい先生は、子供の分からない(つまずき)を知っ、実感できるように教える。

• 子供に考えさせて、考え方を学び合う授業

- 子供にできたことを発表させることで、教える。(子供は先生ほど上手には教えられない)
- 子供が困っていることから発表し、クラスみんなで考えるように促す。

• 分かりましたね。
• 分からないところはありますか。

• いい考えですね。
• なるほど。そう考えたんだ。

知識技能だけを教えるだけなら先生が教えて練習させるのが効率的。教えるときにも先生が分かっている教え方だと上半分の子しか分からない。子どものつまずきを知っ知識技能を教えるとおわかりやすい。思考力を育成する子どもたちが学び合う授業をする場合でも、できた子の発表をするのではつまずいている子には伝わらない。困っている子、途中で分からない子から発表させ、その子を巻き込みながら進めることで、苦手

な子に寄り添った授業ができる。できる子が繰り返し説明しても分からない場合には、物とか図を使ってごらんなどとアドバイスして進める。結果的に自分の説明でみんなが分かってくれたと思うような授業ができる。先生が説明してヒーローになるより、子どもがヒーローとなるような授業をすることで、子ども同士の学び合いが生まれてきて先生が説明しなくてもよい授業になる。

この後、箱入りのカップケーキの値段を、個数をそろえて比べる方法を伝える工夫をどのようにすれば良いのか、長さがすべて示されていない複合図形の体積の求め方をどのようにすれば良いのか等、分からない児童・つまずいている児童に具体的にどのような指導をしたら良いかをお示しいただいた。講演の中で実際に参加者がその方法を考え、授業の場面ではどのようにすれば良いかを考える場面があったが、子どもたちに分かってもらうための工夫とはどこまでやることなのかとの思いを持った。

指導案を書く際にも、つまずいている子様子と反応を書き、算数が得意な子の説明の不足を教員が問い返すような展開をすることでつまずきを出さない指導をしていくことができる、とのご示唆をいただいた。

指導案に子供のつまずきの様子と対応を書いておく

- ・ 自力解決の場面(予想される児童の反応)
 - 子供の正解の反応
 - ・ 縦に分けて解いている。
 - ・ 全体からいらぬ部分を引いている
 - 子供のつまずいている反応
 - ・ 「 $5 \times 7 \times 4 +$ 」で止まっている。
- ・ 話し合い・学び合いの場面(指導上の留意点)
 - つまずいている子が「あっそうか」と思うように、問い返しの発問と、そのときに他の子供が説明する際の留意点を書いておく。
 - ・ 「 $5 \times 7 \times 4 +$ 」で止まっていた子供がいた場合は、学級全体に「 $5 \times 2 \times 4$ ってどういうことですか」「なぜ縦の長さは5cmなのですか」などと問い返す。
 - ・ 説明する子供に具体物を渡し、具体物を示しながら説明させる。

<質疑・応答>

つまずいている子どもたちの更に下位層の子どもたちへの対応はどのようにすれば良いのかという質問に対し、「今日は上位層の子でなく授業の中でつまずいている子への対応をお話したが、特別支援的な配慮が必要な子や家庭的に難しくついていくことが困難な子がいると思う。その点に関してはまた別の支援が必要になるが、それについては明確に言えない。それは、例えば生活が大変だったり、特別支援的な支援だったり、状況がそれぞれに違う。難しいが学校でできること、例えば部活に行くまでの間の時間を使って指導するなどを考えていってほしい。そして、何より教師が子どもとつながっていくことが大事。それがあつての学習だと思う。」

教師が良き伴走者となり、算数・数学が苦手な子どもたちをいかに支援していくかを考えていく貴重な機会となった。また、山梨県の学力・学習状況調査の現状を踏まえると、笠井先生のお示ししていただいた授業を全県で取り組みを進めることが学力向上のみならず、多くの山梨県の子どもたち、教員を救う手立てになるのではないかと思った。

機会があれば多くの先生方にお伝えしたいという思いを強くした講演であった。

<参加者からの感想（抜粋）>

- ◆ できない子を底上げするという点に関して、知能指数に対してどれくらいの水準を目指すのが妥当なのか、知能の発達を待って後から学年を戻って学んだ方が良いのか、等々、今後の方策についてもっと詳しく学んでみたいと思いました。
- ◆ 授業改善のヒントが得られました。
- ◆ 日々の授業に生かしていける内容でした。ありがとうございました。
- ◆ 前半も非常に充実した内容だったことを前提に、笠井調査官の模擬授業、ぜひみたかったです。
- ◆ 笠井健一先生のお話をもっと聞きたいです。続きを聞きたいです。
- ◆ 今すぐに算数の授業をやりたくなくらい勉強になりました。苦手な子が真ん中になるような、中心になるような授業作りを心がけたいと思いました
- ◆ 自分自身の授業に活かされる内容をご講義いただきありがたかった
- ◆ エビデンスを、もとにしたわかりやすいお話でした。ありがとうございました。
- ◆ 明日からでも活用していける、本当に充実した時間をいただきました。
- ◆ 調査官から授業改善のポイントを丁寧に教えていただき、多くの学びがありました。ポイントを整理して、実践に生かしていきたいです。
- ◆ 真ん中より下の生徒が活躍できる授業を目指し、授業を考えていきたいとあらためて思いました。ありがとうございました。
- ◆ 基本的な教師の姿勢を大切にしたい。
- ◆ 日々の算数授業に不安と悩みを感じていましたが、今日の講義を受け、明日からもっと子供の声を拾い、算数が苦手な子中心の授業を組み立てていきたいと強く感じました。
- ◆ 具体的な事例を示しながら、大変に丁寧に説明していただき、自分の授業を想像しながら聞くことができた。
- ◆ 学び多き時間となりました。すぐにまた算数の授業をやりたくくなりました。
- ◆ 個別最適、協働的な学び、言葉が優先されているように感じることもありましたが、今回のお話を聞いて、本質・大切にしたい根っここの部分は何かを改めて考えさせてもらえる貴重な時間でした！明日からまた算数授業頑張ります！！ありがとうございました！！
- ◆ とても良かったです。模擬授業までいきませんでした。とても深い学びができ、また勇気づけられました
- ◆ 学力が真ん中より下の子をいかに拾うかが、教師の仕事だと感じました。教材研究、問い、具体物、予想など、できる準備をして一回一回の授業をやっていきたいと感じました。
- ◆ 学力状況調査の結果や、算数の指導についてとても勉強になりました。
- ◆ 全国学調の結果から分かる課題を冒頭で紹介していただいたことにより、その後の笠井先生のお話がより鮮明になったのではないかと思います。本日はありがとうございました。
- ◆ 笠井先生、早川先生、天野先生からのお話をお聞きしながら、私自身の授業観や児童理解に対する考え方を見つめ直すことができるとても有意義な機会でした。お話をお聞きし、すぐにでも算数の授業をしたいという思いに駆られました。今後にかしていきたいと思います。本日は、貴重な機会をいただきありがとうございました。
- ◆ 山梨県の抱える課題と、それに対応した授業改善の視点を学べてよかった。

- ◆ 学力テストの結果分析も、笠井先生のご講義も大変勉強になりました。笠井先生のお話を聞いて明日からの授業を変えていこうと思いました。
- ◆ 各御講義は学ぶところがあり、よかったです。今まで大事だと思っていたことを再確認しました。
- ◆ まさに、自分が知りたかった内容でした。笠井先生から発せられるお言葉がものすごく心に沁みました。
- ◆ 全国学力・学習状況調査ではクラスの子が算数が苦手だと答え、点数も低かったです。日々授業をする中でも既習事項が定着していないと感じています。苦手な子を拾う授業を展開していきたいです。
- ◆ 子供たちのつまずきに気づき、そこから授業づくりをしていきたいと思いました。
- ◆ 早川先生と天野先生のお話から、全国学調の結果から授業を改善するための見通しを持つことができた。具体的な方法のイメージを掴めたのは大きな収穫であった。「授業改善のため」という目的であればいいが、「全国平均に追いつくため」「他県に負けないように」といった方向にくれぐれも行かないようにしていただきたい。笠井先生のお話からは、授業における教師の役割やそのための教材研究の奥深さを再認識できた。学習者主体の授業の実現のために、複線型の授業や端末を駆使した授業を構想している中で、そもそも授業とは、を考えさせられる内容であった。生徒の実態や学習内容等に合わせた授業が展開できるようにしたい。最後の先生の質問こそ、まさに先生方の困りの核心だと思った。
- ◆ 今の教育に関する論点、リカバリーの方角性など、非常に参考になりました。

教員人生をスタートさせる あなたのための

教員就職 直前講座

日時

2月10日(月)

13:10～15:30

場所

M-12教室 他

お申し込みは
こちらから

内容

- 1 ICT活用についてのワークショップ
講師：三井 一希 先生（山梨大学）
- 2 現職若手教員による講座
講師：関戸 宏樹 先生（笛吹市立富士見小学校）
講師：武田 美結 先生（甲府市立上条中学校）
- 3 なんでも質問コーナー
（悩みや不安など、現場経験者がなんでも答えてくれます！）



第2回 やまなし情報教育推進室 フォーラム

教育の情報化の 現在とこれから

2025年 3月 6日(木)

17:00 - 19:00

参加費
無料

対面とオンラインのハイフレックス方式

＜対面会場＞山梨大学甲府キャンパス J号館5階 A会議室

＜オンラインの接続先＞申込者に通知します

小・中・高の情報活用能力の系統性を考える

2nd GIGA時代
これから求められる資質・能力、授業の在り方とは！？

お申込みはこちらから▼

(締切) 3月2日まで



フォーラムの内容

- *やまなし情報教育推進室の活動紹介
- *講師（堀田 龍也 氏）の講演
- *情報活用能力の育成に関する小・中・高の実践発表
- *講師とパネリストによるディスカッション 他

パネリスト

- 池田 理恵子（甲州市立塩山南小学校 教諭）
今村 裕樹（甲斐市立敷島中学校 教諭）
稲垣 俊介（山梨大学 准教授
／元都立高校 主任教諭）

講師

堀田 龍也 氏

東京学芸大学教職大学院・教授
学長特別補佐



文部科学省初等中等教育局・視学委員
国立教育政策研究所・上席フェロー
信州大学・特任教授
中央教育審議会・委員

主催 山梨大学 教育学部附属教育実践総合センター やまなし情報教育推進室
お問い合わせ 山梨大学 教育学部附属教育実践総合センター（事務室）

TEL 055-220-8325 Mail edjissen-as@yamanashi.ac.jp

教育ボランティアニュース No.1

～教育ボランティア経験者に何でも聞いてみよう！～

2024年4月24日 教育ボランティア学生運営委員会

教育ボランティアスタートセミナー・・・4月10日（水）開催

4月10日に令和6年度教育ボランティアスタートセミナーが開催されました。今回のセミナーでは、教育ボランティア活動を初めて行う学生に向けて、教育ボランティア学生運営委員長・副委員長によるお話やグループ協議、甲斐市立竜王小学校の久保田勲教頭先生からお話があり、教育ボランティアに関する疑問や不安を解消し、活動への理解が深まるセミナーとなっていました。本通信では、本会の様子についてご報告いたします。

まず、教育ボランティア学生運営委員長より激励の言葉がありました。副委員長からは「教育ボランティアの目的・ボランティアの活動例・教育ボランティアの良いところ・主な活動場所」に関する説明が行われ、教育ボランティア活動中のタイムスケジュール等を確認したことで、教育ボランティアに対する具体的なイメージを持つことができる内容となっていました。

その後、教育ボランティア経験者の各コースの先輩を交えたグループ協議「教育ボランティア経験者に何でも聞いてみよう！」が行われ、教育ボランティアに参加する際の身だしなみや交通手段、活動内容に関する質問に先輩が答えたり、アドバイスをしたりする時間が設けられていました。

グループ協議の後には、甲斐市立竜王小学校の久保田勲教頭先生からお話がありました。ネグレクトや家庭内暴力の問題など「The 現場」を理解することが可能であったり、自分自身に適した校種を見つけたりすることができるという教育ボランティアの利点を教えていただきました。また、学校現場では「特別な支援を必要とする子ども」の支援・安全確保を担うボランティアが求められているという現場の先生の意見を知ることができました。楽しい雰囲気でお話が進み、本会に参加した学生は久保田先生のお話に釘付けになっていました。特に身だしなみに関する先生のお話で「服装・髪型など多様性を受け入れる時代に応じて学校現場も変わろうとしているが、教育に携わる者として、子どもの前に立つ際には万が一を想定する必要がある。」という説明に学生も納得している場面があり、オンオフの大切さを共通認識するきっかけとなりました。

本会では、1年生をはじめとした90名の学生が参加し、充実した時間となりました。本学期も多くの学生が教育ボランティアに参加していただけると嬉しいです。



【参加者のアンケートより】

- ・先輩の話がとても分かりやすく、様々なことを聞けた。
- ・活動の内容が見えて、参加後の活動が分かりやすかった。
- ・自分にはない視点での質問があり、とてもためになった。
- ・気になっていることや不安に思っていることがすべて解消できて有意義な時間だった。
- ・受入先の先生のお話から、楽しそうな学校現場や、教員側から見た教育ボランティア学生の需要を知ることができて参加意欲が高まった。
- ・これから教育ボランティア活動をする1年生の力になれてよかった。(4年生)

教育ボランティアニュース No.2

～教育ボランティアについて詳しく知ろう！！～

2024年5月15日 教育ボランティア学生運営委員会

教育ボランティアガイダンス・・・4月17日（水）開催

4月17日に令和6年度教育ボランティアガイダンスが開催されました。参加者155名、受け入れ先19機関に来ていただきました。今回のガイダンスでは初めに受け入れ先の学校や自治体の代表者の方にお越しいただいて教育ボランティアの形態や特徴について紹介していただきました。全体での説明が終わると各団体に分かれての質疑応答の時間がありました。全体での説明で疑問に感じたことや詳しいボランティア内容について参加者は話を聞くことができました。本通信では本会の様子についてご報告させていただきます。

初めに服部学部長より教育ボランティアの意義や心構えについてお話しいただきました。教育ボランティア委員長からは、実際に教育ボランティアに参加しての注意点や3年生で行う教育実習につながるとても大切な経験になるとお話しいただきました。時間が経つのはとても早いので、始める前に今日の目標を決め、終わったらすぐに振り返りを行うことで、次のボランティアの際に前回の反省を生かした活動ができるので、より良いものになるとお話しいただきました。



その後は決められた時間の中で、各受け入れ先の担当の方から、ボランティア内容や過去の先輩方の活動の様子などを教えていただきました。どのような内容のボランティアをするのか、どれぐらいの頻度で行けばよいかなど疑問に思っている方も多かったですが、受け入れ先の担当の方の話をよく聞きメモ等を取りながら真剣に話を聞くことができていました。最後に各受け入れ先の担当の方々が教室に広がり、個別の質問タイムの時間になりました。全体での説明で疑問に感じたことや興味を持ったブースに行き積極的に質問をしていました。受け入れ先の方だけでなく

先輩、後輩同士でも多くの意見を出し合い、有意義な話し合いができていました。1年生にとっては不安なこともあったとは思いますが実際に経験している人の話を聞くことができとても良い時間となっていました。

教育ボランティアに参加したいけれど迷っている方や教育現場についてわからないことがある方など、教育ボランティアへの参加を迷っている方はぜひ後期（10月）のガイダンスに参加してください。前期に参加していない方も後期から参加することができます。その他質問等があれば私たち学生運営委員もお答えします。



韮崎市立北西小学校・・・7月17日（水）訪問

訪問者：萩原 佳子

韮崎北西小学校は創立47年、旧神山・清哲・円野小学校の3校が統合され、昭和53年に開校した全校児童数112人(学級数8)の学校です。「たくましく がんばる子」を教育目標とし、一人ひとりの子どもを大切にし、「笑顔あふれる学校～子どもたちの可能性を最大限に引き出し、幸せを願う」の実現のために教師・保護者・地域が一丸となって取り組んでいます。また、卒業生に、パリ2024オリンピック、レスリング種目出場の文田健一郎選手、旧神山小学校は、ノーベル医学生理学賞を受賞した大村智先生の母校でもあり、山梨県を代表する素晴らしい人材を育成された伝統ある学校です。

今回は、山梨県小学校教員養成特別教育プログラムの幡野心優さんが、2校時(9:25～)に行われる「2年生書写」の授業に教育ボランティアとして活動しているところを訪問しました。担任の曾雌先生、学習支援員の阿部先生の指示のもと、児童と同じ高さの目線に立ちながら、個々の児童のペースにあわせて丁寧にサポートをしている様子が印象的でした。また、児童・クラス・学校にとっても温かく、頼もしい存在として受け入れられている様子が伺えました。

当日はお忙しいところをご対応くださった校長の横内理香先生・教頭の佐野一記先生に心より感謝申し上げます。



学習支援をする幡野さんの様子



2年生の児童より

とってもやさしくて、
そとでいっしょにあそ
んでくれるところが大
すきです。 Sくん

【教育ボランティア学生インタビュー】

「教育ボランティアを経験してよかったと思うこと」

○初日から、わざわざ教室に遊びに誘いに来てくれる子がいたり、外で遊んでいると学年関係なく「私も・僕も入れて」と言って、気付いたらすごい人数で遊んでいたりと子どもたちと直接関われる経験が私にとっては貴重で、とても楽しい時間です。「毎回、とにかく楽しい」という思いでいっぱいです。

「教職を目指す気持ちの変化」

○私は2年生になるときに「本当に自分は将来教師になるのか」という疑問を持つようになっていました。しかし、北西小学校で活動する中で先生方からたくさん感謝の言葉を頂いたり、子どもたちが授業中に「みゆ先生、教えてください」と頼ってくれたりやりがいを感じる場面が多く、北西小学校にいく度に「やっぱり教師になりたい」と思いました。そして、子どもが嬉しかった・楽しかった・悲しかった・悩んでいることなど、何でも話したいと思えるような教師になりたいと思います。

「教育ボランティアをはじめようと考えている学生へアドバイス」

○私自身、教職を目指す人のみが「学生ボランティア活動」をするのかと思っていましたが、そんなことは考えずに、まずは“やってみてください”“体験してみてください”きっと「楽しい」はずです。

【横内 理香校長先生のお話】

北西小学校では、開校して初めての「教育ボランティア」学生が本校に来てくれるということで心から「ありがとうございます」と感謝の気持ちです。学校現場のありのままの姿、現実的な対応などを間近で見て学ぶことのできる貴重な機会であり、自ら子どもたちに言葉をかけ教えることで「できた！わかった！」という経験を子どもたちと共感し積み重ねながら教師への道に繋がることを期待し、教師という職業に魅力を感じほしい。学校側がサポートしてもらおうと同時に、若い感性で子どもたちと関わっている様子は、校内の活性化にもつながり子どもたちの教職員も毎週幡野さんに会えることを楽しみにしています。今後も様々な教育活動を体験し、楽しみながら子どもたちを支援してほしいと思います。

教育ボランティア活動を受け入れ、様々なご配慮をいただいている北西小学校の先生方に感謝いたします。

教育ボランティアニュース No.4

～教育ボランティアについて詳しく知ろう！！～

2024年10月8日 教育ボランティア学生運営委員会

後期教育ボランティアガイダンス・・・10月2日（水）開催

10月2日に令和6年度後期教育ボランティアガイダンスが開催されました。今回のガイダンスでも受け入れ先の学校や自治体の計14機関の代表者の方にお越しいただいて、教育ボランティアの形態や特徴について紹介していただきました。全体での説明が終わると各ブースに分かれての質疑応答の時間となり、参加者は全体での説明で疑問に感じたことや詳しいボランティア内容について話を聞くことができました。本通信では本会の様子についてご報告させていただきます。

まず、教育ボランティア学生運営委員長から、教育実習で感じたことやこれから教育ボランティアに挑戦する予定の後輩に向けた熱い思いなどをお話しいただきました。「体験」という言葉について、「体で経験する」と書くということ、教育学部に所属していても4年間の学生生活の中で教育ボランティアなどをしなければ、学校にいる子供たちと関わる「体験」はなかなか出来ないということなどをお話しいただき、参加者は改めて教育ボランティアの貴重性や重要性を感じられた時間となりました。



その後は全体場で、各受け入れ先の代表者の方から、ボランティアの内容や学校の様子などを教えていただきました。決められた時間の中で、教員を目指す参加者へのメッセージや学校の特色についてお話しいただき、時には笑いの生まれる場面もありました。どのような内容のボランティアをするのか、どれくらいの頻度で行けばよいのか、どの受け入れ先に行くべきかなど疑問に思っていた参加者も多かったようですが、受け入れ先の担当の方の話をよく聞き、真剣にメモを取るなどしていました。

最後に各受け入れ先の担当の方々が2つの教室に分かれ、個別の質問タイムの時間になりました。参加者は、興味を持ったブースに行き、全体での説明で疑問に思ったことなどを、積極的に質問していました。

教育ボランティアに参加したいけれど迷っている方や教育現場についてわからないことがある方などは、ぜひ次回（4月）のガイダンスに参加してください。

今年教育ボランティアに参加していない方も来年から参加することができます。

その他質問等があれば私たち学生運営委員もお答えします。



教育ボランティアニュース No.5

～1年間の活動を振り返ろう！！～

2024年12月11日 教育ボランティア学生運営委員

教育ボランティア報告会・・・12月11日（水）開催

12月11日に令和6年度教育ボランティア報告会が開催されました。今年の報告会でも、教員採用試験合格者かつ教育ボランティア経験者の4年生の方に体験発表をしていただいたり、教育ボランティアの形態や特徴、難しさ、良さについて話し合ったり…と学びの多い報告会となりました。班での説明が終わると各班代表者による発表の時間となり、参加者はそれぞれの班でどんな話し合いがされていたのか話を聞くことができました。本通信では本会の様子についてご報告させていただきます。

まず、教育ボランティア学生運営委員長から、子どもの成長の速さ、教育ボランティアはそれを見させていただく貴重な機会であることをお話しいただきました。

また、4年生の小池翔瑠さんには、教育ボランティア体験発表として、3年間の教育ボランティアを通して学んだことをわかりやすく説明していただきました。中でも、「自分自身に矢印を向けることの重要性」や「子供たちだけでなく自分たちも成長できる時間にしよう」という小池さんのマインドについて学べた点は、下級生にとって非常に貴重な勉強の時間となりました。



その後参加者は、各班に分かれて、ボランティアの内容や学校の様子などを話し合いました。「教育ボランティア」という先生ではない、他にないポジションで、生徒や児童とのコミュニケーションや教室での立ち回りの難しさを感じていること、ICTを活用した最近の授業を見たり参加したりして感じたことなどが話し合われました。ボランティアに行っている学校によって状況が違っていたり、教科によって立ち回りの難しさが変わったりすることに気づいた班もあり、非常に有意義な時間となりました。

最後に、各班代表者が話し合った内容をまとめ、全体場で発表しました。他の校種にボランティアに行った方の体験談や意見も聞くことができ、来年度のボランティアや将来について考える機会となりました。皆様1年間の教育ボランティアお疲れさまでした！！

教育ボランティアに参加したいけれど迷っている方や教育現場についてわからないことがある方などは、ぜひ次回（4月）のガイダンスに参加してください。

今年教育ボランティアに参加していない方も来年から参加することができます。

その他質問等があれば私たち学生運営委員もお答えします。



■ 2・3月の主な行事予定

2～3月の 行事予定 山梨大学教育学部の 関係行事を含みます	教師塾プログラム ○前期実習前教師力養成講座 2月3日（月）…2年全員 ○教員就職直前講座 2月10日（月）…4月から教員になる者 教員採用試験対策講座 ○学内模試3 2月4日（火）…2年、3年、M1（次年度教採受験者） ○一次試験対策講座 2月 6日（木） 2月 7日（金） 2月13日（木） 2月14日（金） …2年、3年、M1（次年度教採受験者） ○二次試験プレ対策講座 2月17日（月） 2月18日（火） 2月19日（水） …3年、M1（次年度教採受験者） ○実践力養成講座～今日的教育課題への対応～ 3月 4日（火） 3月 6日（木） 3月18日（火） 3月21日（金） …2年、3年、M1（次年度教採受験者） 進路支援 ○第2回 教員採用試験大学推薦説明会 2月3日（月）…2年、3年、M1
--	---

○山梨大学教職大学院 第30回教育実践フォーラムのご案内

2月8日（土） 9:15～16:00（予定）

対面とオンライン（Zoom）によるハイフレックス方式で開催します。

対面会場は山梨大学甲府西キャンパス総合研究棟（1F受付）です。

※詳細は本資料内のチラシをご覧ください。

新時代を切り拓く教育の追究

山梨大学 教職大学院 第30回 教育実践 フォーラム



令和7年 **2月8日(土)** 9:15~16:00(予定)
山梨大学 甲府西キャンパス(総合研究棟)

教職大学院生等が教師の専門的・実践的力量的の向上を目指して研究してきた一年間の成果を発表します。どなたでも無料で参加できます。ぜひご参加ください。



←お申込みはこちらから

当日参加(対面のみ)も可能ですが、できましたら
令和7年1月31日(金)までにお申し込みください。

対面と
オンラインの
ハイフレックス方式による発表

教育実践に関わる
74の研究発表を
予定しています！

お問い合わせ先: 山梨大学教育学域支援課
Tel: 055-220-8107
E-mail: edu-ksk@yamanashi.ac.jp

【主催】山梨大学教職大学院
【後援】山梨県教育委員会



山梨大学 教職大学院 第30回 教育実践 フォーラム

<ご案内>

【テーマ】

新時代を切り拓く教育の追究

【開催日時】 令和7（2025）年2月8日（土）
9：15～16：00（予定）

【開催会場】 山梨大学甲府西キャンパス 総合研究棟

【開催内容】 山梨大学教職大学院生による研究発表
（全75の発表を予定しています。）

【開催方法】 対面とオンライン（zoom）による
ハイフレックス方式

【参加申込】 令和7年（2025）年1月31日（金）までに、
下のQRコードから申し込んでください。
その際、対面もしくはライブ配信の
いずれかを選択してください。



お申込みはこちらから→

令和7年1月31日（金）までにお申し込みください。

対面参加の方

対面で参加の方は、総合研究棟(★)1Fの受付にお越しください。なお、当日は臨時の駐車場をご用意しますので、こちらをご利用ください。駐車場ご利用の方は、総合案内所(●)にお越しください。

オンライン参加の方

オンライン(zoom)で参加するためのURL・ID等は、参加申込をしていただいた方に、2月3日から5日間の間に登録していただいたe-mailのアドレスにご連絡します。

お問い合わせ先：山梨大学教育学域支援課
Tel：055-220-8107 E-mail：edu-ksk@yamanashi.ac.jp

